

来週の '売り物'、記事はこれ



2016年12月9日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

米国再訪 被爆者の思いを継ぐ

11日(日)



シンガー・ソングライターの中村里美さん(52)＝東京都＝は冷戦下の1986年に約1年をかけて米国各地で原爆記録映画を上映し、原爆の実相や被爆者の証言を伝えました。しかし、当時はヒロシマ・ナガサキを言えば、「パールハーバー」「アジアへの侵略」と言い返されました。帰国後は語りと歌のライブを重ね、来春には広島原爆の被爆者、沼田鈴子さんをモデルにした自作映画「アオギリにたくして」を携えて再び渡米します。「加害や被害の立場を超えた被爆者のメッセージ」を伝えるため150カ所以上を巡る予定です。この30年で、原爆投下を正当化する人の割合は減ったとされる米国ですが、2001年9月11日の米同時多発テロ以降は「想像以上に内向きになった」ともいわれます。さらに、広島を訪れたオバマ氏の次の大統領に「米国第一主義」を掲げたトランプ氏が当選。揺れる米国と向き合う中村さんの姿を描きます。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

経済人も投資家も浮かれている場合？

トランプ相場への違和感

夕刊特集ワイド 12日(月)



日米の株式市場がわいています。トランプ氏が米大統領に就任すれば、ビジネスマン的発想で経済政策トランプノミクスを打ち出し、景気がよくなるとの期待感から、浮かれムードすら漂います。しかし——いくら「経済は別」といはいえ、「米国第一」を強調し排他的、女性蔑視的な発言を繰り返した危うい人物を持ち上げるだけでいいのか。そもそも「バブル崩壊」のリスクはないのか。「違和感」の根っこを探りました。

おしゃれにバリアフリー

くらしナビA面 13日(火)

高齢化社会では、ファッションにもバリアフリーの視点が求められます。シニアや体の不自由な人に向けて、機能性とおしゃれを兼ね備えた商品が次々に登場しています。つえ専門店には、地味で年寄り臭い、といった従来のイメージと異なる色柄豊かな商品が並びます。見た目は礼服でデイサービスの運動でも使える紳士用スラックスも売れているそうです。



社内結婚の利点は

くらしナビA面 14日(水)



社内結婚が多い企業は働きやすい？ 会社で知り合い結婚するカップルを応援する企業が出てきました。社内合コンや社内結婚手当が、社内のコミュニケーション活発化や離職率低下につながっているそうです。専門家は「働きやすい環境になれば社員の定着率が良くなる。社内結婚を支援する企業は女性社員の定着を図っているのでは」と分析しています。

枝元なほみさんと西原理恵子さんの抱腹絶倒料理教室。今回は、残り物を変身させる「発展揚げ」です。中身は何でもよく、またの名を「闇揚げ」。枝元さんは「たくさんお客が集まる時のおもてなしにもいいし、お正月のおせち料理のアレンジにもいいですよ」と太鼓判を押します。今回の中身は筑前煮と、明太もちチーズ。黒豆とクリームチーズもオススメです。



新しい加速器「スーパーKEKB」



小さな1点のビッグバンに始まった宇宙には、どうして今のように物質があり、星や銀河ができたのか——。人類が長年抱いてきた謎を解くカギは、宇宙の誕生からわずか1000億分の1秒の間に起きた「出来事」にあると研究者は言います。高エネルギー加速器研究機構はそれを確かめるため、新しい加速器「スーパーKEKB」で行う実験の準備を進めています。